

宮崎市における3歳6カ月児健康診査の視覚検査について

久峯 美千代

宮崎市総合発達支援センター | 視能訓練士

宮崎市の3歳6カ月児健康診査の視覚検査についてご報告させていただきます。

宮崎市では、3歳6カ月児健康診査ということで、対象児の年齢は、3歳6カ月から4歳未満のお子様を対象に行われております。

視能訓練士の参加は、眼科医が宮崎市保健所に要請し、2002年度から始まりました。私は宮崎市総合発達支援センターが開設したことで、2003年度から参加させていただいております。

参加医療機関は2医療機関からスタートし、年によって増減はありますが、2023年度は過去最多の8医療機関が協力しています。

健診の回数は、年度によって替わりますが、月5~7回、年間70回前後行われます。1回の健診に1人の視能訓練士が参加し、12時30分から2時間半~3時間かけて、50名~70名を検査しております。

視覚検査の内容

まず、自宅で視力検査を行います。事前に、視覚に関するアンケートと1.0のランドルト環と回答用のランドルト環、検査方法の説明資料をご自宅に郵送し、2.5mの距離で測定しています。その結果を4方向(上下左右)〇×で回答します。家庭で未実施の方は、会場で保護者が行います。屈折異常の疑いのある方だけでも視能訓練士が検査を行う案も出たことがありましたが、時間と場所の関係で、未実施の方のみ保護者がすることになりました。

健診会場では、看護師がまずSpot® Vision Screener(以下SVS)を施行します。異常が出た場合は、2回測定してもらいます。SVS測定後、視能訓練士が検影法、眼位、必要時、眼球運動を検査します。

屈折検査機器について

屈折検査機器の変遷ですが、2002年度は「フォトレフラクター」、2003年7月から、Welch Allyn社の「シュアサイト™ ビジョンスクリーナー」に代わりました。私が参加し始めたころは「フォトレフラクター」を使用しており、写真を見るのが初めてだったので、判定するのによく分からず、苦勞したことを覚えています。その後、「シュアサイト™ ビジョンスクリーナー」になり、判定は楽になりましたが、機械に慣れないと測定に時間がかかるので、年度当初の新しく来られた看護師が苦勞されておりました。

2019年2月からSVSを購入していただき、看護師は測定が楽になり、検査時間も短縮され、待ち時間の減少につながりました。また、SVSになってからは、精密検査を受けていただく時に医療機関に持参していただく精密券に、SVSの結果を記入するように話し合いで決定しました。スキアスコープは、当初は職場の機械とレンズを持って行っていたのですが、2003年後半に宮崎市の方で購入していただき、2020年には、コードレスを購入していただいたので、検査室に入れなかったり、着席できないお子さんにも柔軟に対応できるようになりました。

<宮崎市保健所の視覚検査室>

視覚検査は、視能訓練士1名、看護師2名で対応します。



①看護師がSVSを施行します。



②隣の部屋に移動し、スキア、眼位検査を施行します。手前の椅子に看護師が座り、健診のカルテや精密券を記入します。

意見交換会

年 1 回は、母子保健担当の保健師 3 名と眼科医 1 名、参加している医療機関の視能訓練士各 1 名が集まり、意見交換会を行います。前年度の視覚検査の実績報告や健診内容の振り返りと説明配布資料などの検討、検査室の環境の要望などを話し合います。健診会場では 1 名での参加です。また、私の職場は、障がい児を対象に診療しているので、眼科としては規模も小さく、SVS は使用しておりません。意見交換会では他の医療機関の方から SVS の特徴や普段どのようなことに気を付けて検査を行っているのかなど聞けるので、とても有意義な場になっております。

宮崎市は早くから子どもの目の発達のことに関心を持ってくださり、SVS やコードレスのスキアスコープの購入など、非常に協力してもらい感謝しております。これからも宮崎市の子どもたちの目の健康のために努力していきたいと思っております。

最後に

健診で斜視や屈折異常の疑いを発見することはもちろん大事ですが、眼科を受診していただくことが大事ですので、保護者には視力の発達について説明し、今の時期が最も大切な時期であることをゆっくりと分かりやすい言葉で話すように心掛けています。